

2023 年度(令和 5 年度)

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会
福岡水巻看護助産学校

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡水巻看護助産学校の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

2024 年 6 月 4 日

学校長 矢野公一

学校評価実施責任者
副学校長 平田 昌美

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容

- 項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目 II 学校運営
- 項目 III 教育活動
- 項目 IV 学修成果
- 項目 V 学生支援
- 項目 VI 教育環境
- 項目 VII 学生募集
- 項目 VIII 財務
- 項目 IX 法令等の遵守
- 項目 X 社会貢献・地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所属	選出区分
木通 幸代	福岡新水巻病院 看護部長	企業委員
松田 貢二	社会福祉法人 水巻町社会福祉協議会 前会長	地域住民
田中 理章	北九州市立楠橋市民センター 館長	地域住民
高祖 順子	水巻町社会福祉協議会 事務局長	公共団体
塩川 洋平	福岡新水巻病院 副看護師長	卒業生

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会 日時:令和5年9月20日(水)10:00~12:00

場所:福岡水巻看護助産学校 1階会議室

第2回委員会 日時:令和6年3月19日(火)10:00~12:00

場所:福岡水巻看護助産学校 1階会議室

4) 学校関係者評価方法

令和5年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

本校は、「人間愛と自己実現」という人間の根本精神を理念に掲げ、人間性豊かな人格の陶冶と、看護師若しくは助産師となるために必要な知識及び技術を専門的に教育し、社会に貢献する有能な人材を育成するために設立された学校である。育成する人材像は、育てたい学生像として、助産学科、看護学科それぞれにあげ、それを到達するための教育目標を文書化し、学生便覧、ホームページ等で公開し、学生、学校関係者、地域の人に周知している。教育目的・育成人材像は、社会における医療、看護・看護教育の動向を踏まえ、関連団体とも連携しながら時代の要請に応じたものとなるよう、毎年評価し、見直しを図っている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

項目Ⅱ 学校運営

総括

運営方針については、社会に貢献できる看護師、助産師の養成という教育理念、教育目的の達成に向けて、一貫した方針を掲げている。組織運営については、教育理念、目的の達成を目指した学校運営を行うために、組織図の見直し、諸規定の改廃、会議、委員会の開催等行い、その整備に努めている。

情報システムについては、学事システムを導入し業務の効率化を図っている。また、共有フォルダを活用し、チームでの仕事が効率よく進められ、個人のパソコンにデータを残す必要がなくなり、セキュリティが向上している。基本的には、学生情報(個人情報等)の機密性を重視し、セキュリティ体制を考慮したシステム構成の構築を行っている。

学生との連絡ツールとして、今年度よりクラスルームを活用している。緊急時は速やかな伝達ができている。また、事務連絡等もクラスルームを活用することにより、確実に情報を伝えることができ、手続等も滞りなく行えている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

項目Ⅲ 教育活動

総括

教育課程編成において、教育理念から教育目的・教育目標・育てたい学生像を明文化している。また、シラバスには、各授業科目の目的、到達目標、授業内容、授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしている。看護学科においては、3 年間で 106 単位 3060 時間、助産学科は 1 年間で 32 単位 975 時間の教育課程を実施し、全単位取得をもって卒業時の到達としている。教育方法については、専門基礎分野や専門分野の講義は、専任教員とともに法人グループの各病院・施設の医師や看護師・助産師が担当している。演習においては、学内ではあるがなるべく現場の状況を取り入れ、学生や教員が患者役を行い、看護援助の振り返りを行っている。単に知識・技術の強化だけでなく、コミュニケーション能力や状況判断能力の強化に向けて、シミュレーション教育も取り入れているが、学生の臨床判断能力や看護実践能力が身につくような授業の工夫が不十分である。教員自身がどのような教育方法が必要なのか考え実施する、教育実践能力をあげていかなければならない。

授業評価は実施しているが、授業中の態度とは反して学生からの意見や要望は少ない。学生は授業に集中していない様子が窺えるが、学生自身の声をもっと聴きながら、授業改善に取り組んでいくことが課題である。

成績評価・単位認定は学則および履修規定に則り実施している。

資格取得の指導体制としては単位修得のための学習支援を個人に応じた方法を工夫しながら実施している。年々、学習支援が必要な学生は増えているが、生活のためにアルバイトをしている学生も多く、十分な学習時間の確保ができていない現状がある。また、3 年次の長期休暇は国家試験対策セミナーを対象学生に行っているが、セミナーの参加率も下がっている。学習支援など、改めて国家試験対策の在り方を検討する必要がある。学内の専任教員については、業務の偏りをなくすように配分するとともに、教育力の強化や、資質向上のために研修会・学会などの参加を促している。グループ校で協同して実施している研修の参加率は 7 割程度と比較的高い。しかし、学会参加率は 3 割程度、専門分野等の研修参加率は 1 割程度と低い。自己研鑽への意識が低いと言わざるを得ない状況である。変化の激しい時代を生き抜くためには、学び続け、新しいスキルを身に付け続ける姿勢が非常に重要であることを認識しなければならない

課題及び今後の改善方策

教育実践能力をあげるためにも、研修や学会に参加し自己研鑽に努める。また、研究授業にも取り組む

学校関係者評価委員会からの意見

教員のスキルアップのためにも研究授業に取り組むことは大事である

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：B ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか

■自己評価：B ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

項目Ⅳ 学修成果

総括

本校は、社会に貢献できる看護師、助産師の養成を教育理念・目的に掲げていることから、病院をはじめとする医療機関への就職率が、学修成果を判断する1つの指標となり、100%を目指している。今年度については、看護学科は医療機関への看護師としての就職率は 100%、その

内グループ病院への就職率は 65%であった。、助産学科医療機関への助産師としての就職率は 100%、その内グループ病院への就職率は 6.3%であった。グループ病院は公益性の高い医療の提供を担う医療法人であり、地域の救急医療を担っている。多くの学生がグループ病院に就職することにより、地域医療への貢献に繋がるため、就職率の向上を図っている。就職率の向上に向けては、グループ病院と協力して就職説明会を開催している。先輩看護師から働くことについて直接話を聞くことができ、就職先選択の参考とするとともに、看護師として働くことのイメージ化に繋がっている。グループ病院が行っているインターンシップへの参加も呼びかけている。

看護師、助産師は、保健師助産師看護師法の規定により国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。国家試験に合格することは、社会に貢献できる第一歩であり、学校として 100%の合格率を目指している。看護学科は、令和4年度は 3 名不合格(合格率 95.5%)、助産学科は全員合格でした。合格率は、看護学科は全国と同一、助産学科は全国平均を上回る結果を得ている。

退学率は看護学科 2.9%(1 年生 56 名中 3 名、2 年生 73 名中 3 名、3 年生 75 名中 0 名合計 6 名)と昨年より増えている。特に 1 年生に関しては、突然、欠席が続き、連絡が取れない状況となり、面談もカウンセリングもできないまま、退学に至るケースがある。退学理由としては“学校が嫌”“勉強が嫌”など、学校生活に馴染めない様子が窺える。保護者との連携は密にとっているが、学校継続に関しては、学生と保護者との相違があり、また、学習についていけない学生も増えており、学習支援の在り方も考えていく必要がある。

助産学科は 1 年間教育であり、教育内容はかなり多く多重課題である。しかし、目的意識が高い学生が進学してきているので、退学率は 0%である。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 IV-2

国家試験合格率が良好であるか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目 V 学生支援

総括

自らの適性を踏まえた進路選択ができるようにグループ病院の就職説明会や個別面談を行っている。

学生相談はメンタルヘルスケアの観点からカウンセリング室を設け、専門のカウンセラーが月に 1 回対応する体制を整えているがカウンセリングを希望する学生は少ない。また、教員が個別面談を行い学生との信頼関係を築くことに努めている。学習面や生活面での相談には、クラス担当教員が対応している。

保護者へは、年 1~2 回の保護者会を行い、学習状況や臨地実習、教科外活動に関してなど説明している。学習や心理面で支援が必要な学生の保護者に関しては、随時、電話で状況を伝え、必要時は保護者面談を行っている。

高校・高等専修学校等との連携は高校訪問などを行い、進路教育に関する情報提供は行っている。進路相談など依頼に応じて協力体制をとっている。コロナ禍の時は進路相談の依頼は少なかったが、現在、企業を窓口に進路相談の依頼が増えている。修学支援体制として奨学金などの案内、説明は十分に行なっている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・教育用具に関しては、法令に則り整備するとともに、教育目的の達成を目指し、知識・技術の両面から実践力を育てる環境となるよう充実に努めている。また図書室や講堂、視聴覚室は、卒業生やグループ職員が利用できるように便宜を図っている。学生が快適な学校生活を送れるように施設・設備を整えている。

臨地実習は教育目的達成に向けての重要な科目であり、学修成果の向上を目指して実習環境を整えなければならない。本校、看護学科の基礎看護学、成人看護学、老年看護学、統合看護学実習はグループの病院で行うことができている。実習施設は、実習指導者の配置をはじめ看護基準の作成・活用、看護職員の継続教育の実施、看護用具の整備等実習施設としての条件を具備することが必要であり、この点を踏まえて各実習施設との調整を行い、より良い実習環

境の確保に努めている。また、グループ病院(福岡新水巻病院)との連携で、実習指導者の研修会を開催している。今年度は40名弱の看護職員の参加があった。

防災計画、消防計画、マニュアル整備については、消防計画を作成し、消防署へ届出を行い、防火対策のマニュアルについても作成し運用している。

防災・安全管理については、規定整備や消防訓練等も定期的に行うなど必要な対応を実施している。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし。

項目VII 学生募集

総括

学生募集活動については、将来看護師、助産師としての職業選択に直接結び付く教育機関であることから、学生募集に際しても、職業としての看護師、助産師について、その職務内容について説明を行うことに努めている。助産学科に関しては、分べん件数の減少や実習施設の確保困難などの理由により、令和6年度の入学生を以って募集停止となる。助産学科進学を目指して本校の看護学科に入学した学生もおり、他校の助産学科進学に向けての学習支援を計画的に実

施していく予定である。募集活動については、入学希望者へ公平に情報提供ができるよう心掛けており、ホームページからも情報が取得できるよう工夫している。毎年高等学校や地区別で実施される進学説明会に参加し進学相談に対応している。今年度は8か所参加し説明を行っている。看護を選ぶ高校生の進学先は看護大学が多く、専門学校に興味を示す学生は少ない。学生確保のために指定校を増やし、積極的に高校訪問を実施した。また、学校説明会も内容の充実と回数を増やした。その成果はあり、今年度は昨年に比べ入学生は増えたが、未充足の状態は変わらない。

課題及び今後の改善方策

学生定員数未充足に対して、当校の学習環境が整備されていることなど魅力を積極的に発信していく

学校関係者評価委員会からの意見

学校がある地域は高齢化率が高く、人口減少傾向にある。200名以上の学生が地域に入りすることは、地域の活性化にも繋がるため、学校存続の意義がある

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅷ 財務

総括

本校の財務については、学校法人巨樹の会の一施設として管理されている。一方で学校の独自性を保ちながら、学校運営で必要となる事業計画上の支出については、学校の運営に委任されている。学校単独の収支状況の影響なく運営が行える状況にある。

予算編成については、学校法人巨樹の会の一施設として予算編成を行っている。同時に事業計画に当たる内容を「事業方針」として学校運営方針に基づいた計画と併せている。予算編成に際しては費目ごとに内容を精査しており、教育目標等の学校運営方針と整合性を保っている。会計に関する規定はすべて学校法人巨樹の会として対応している。そのため予算管理、実績管理

についても一定のルールとチェックのもとに、日常管理されており、問題なく運営されている。会計監査においても監査法人による監査を導入し適正に行われている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

本校の運営にあたっては、関係する法令を遵守し、種々の規定されている届出について、定められた事項を毎年報告している。さらに学校運営にあたっては学則、履修規定、健康管理規定等を作成している。これらの諸規定については、必要時改正を行い、教職員は日々の運営において遵守するよう努め、学生にも関係する規定を遵守するよう徹底を図っている。学校運営に関する規定は、平成28年度から教育課程編成委員会規定等の規定見直しを実施し、職業専門実践課程認定維持のために「教育課程編成委員会」規定を作成し運用している。

個人情報保護に関しては、個人情報保護方針に基づき対応を行っている。個人情報は文書および電子データで活用されるが、基本的には文書管理規定に基づき運用し、必要に応じて見直し、改正している。また、学生への指導・周知については、特に臨地実習においては、患者の個

人情報を扱うことから、その取り扱い方法を遵守するように指導している。個人情報保護に関する誓約書については、実習開始前に各実習施設に提出している。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 X-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 X-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目 X 社会貢献・地域貢献

総括

学校施設・設備等はグループ病院の新入生研修やラダー研修などに使用されている。看護学科では福岡県専任教員養成講習会の指導を行い、教育実習の学生を受け入れ、副学校長、教務主任、担当の専任教員が関わっている。

学生のボランティア活動としては学校見学会に積極的に参加し、演習等を実演したり、学校生活について説明している。また、水巻町のコスモス祭りで社協のお手伝いや北九州マラソンの運営に関する活動を行った。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし